

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価(案)

1 めざす学校像

生徒が主役！ 生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現

1. 授業や特別活動を通じ、生徒が生き生きと学び、将来へのキャリア形成が着実に進める。
2. 規律を遵守し、規範意識を持ち、正しさを一貫して追求する。
3. 生徒の多様な進路を保障しつつ、社会に有為な技術者を送り出している。
4. 地域に貢献し、地域に開かれた学校とする。

2 中期的目標

1 学力向上への取組み

- (1) 生徒が積極的に授業に参加し、基礎的・基本的な学力の定着ができるよう、生徒との信頼関係をベースにした授業改善に取り組む
 - ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開する。また、少人数授業、選択科目の充実を行い「わかる授業」を実践する。
 - ・ 教員の授業力向上のため、教員相互の研究授業の活性化や外部との連携による研修の充実を図る。
 - イ 生徒による授業評価を有効に活用するとともに、生徒が主体的に授業に参加できるよう授業の工夫・改善を進める。
 - ウ 学校での読書活動を一層推進するとともに、授業等における図書館機能の活用を図る。

※生徒による授業評価における授業満足度 (H28 : 79%) を、H31 年度(2019)には 82%をめざす。

- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

- ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身につけるため企業や大学等と連携し、職業教育の充実を図る。
- イ 生徒が職業資格等を取得するよう、学校設定科目に取り入れるなど組織的な取り組みを行う。
- ウ 英語によるコミュニケーション能力を育成するなど、国際社会に通用する技術者を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断結果における実習授業における満足度 (H28 : 75%) を、H31 年度(2019)82%をめざす。

※資格取得者の増を図り、ジュニアマイスター (全工協) H31 (2019) ゴールド 5 人、シルバー 10 人をめざす。(H28 G : 3、S : 8)

2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ

- (1) 人権教育に立脚した他者と連携する力の育成に努めるとともに、生徒との信頼関係をベースにした生徒指導を行う。
 - ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
 - イ 問題行動の防止や再履修生及び退学者の減少に努める。
 - ウ 情報に関する倫理教育の充実を図る。
- (2) 分掌・学年等の取組の中で、生徒の自己実現への支援に努める。
 - ア 支援教育の充実のため教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。
 - イ 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、府教育庁等の事業を活用しながら、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - ウ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。
 - エ 中途退学率の減少 (H27 年度末 1.2%)。また、就職・進学とも全員内定を各年度の目標とする。
 - オ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。また、進学した生徒の学習状況調査を実施する。
 - ※中途退学者減少 (H27 年度 1.2%) を H31 年度 1% ※就職 1 次内定率の向上 (H28 年度 84.8%) H31 年度 80%以上
 - ※進学希望実現度 (H28 年度 82%) を H31 年度(2019)90% 3年後離職率 (H28 年度 21.7%) を 20%以下へ

3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立

- (1) 創立 80 周年を契機に、揺るぎない教育機関としての機能を充実させる。
 - ア 記念事業を成功させ、本校教育の特色を外部に発信する。
 - イ 魅力ある教育活動が進められるよう、学習環境の整備を進める。
 - ウ 産業界をはじめ外部組織からの支持基盤を確立する。

※諸事業の実施成功、安定した企業求人確保
- (2) 中学校への教育内容や進路実績を戦略的に広報し、志願者の安定的確保を図る。
 入学者選抜に係る希望調査時倍率及び志願者倍率の向上 (H28 選抜 : 1.02 倍)
 ※平成 31 年度 (2019) 選抜 工学系・総合募集ともに志願者倍率 1.15 倍をめざす。
- (3) 魅力ある工業教育について研究を進め、意欲ある教員の育成に努める。
 - ア 世代交代が進む中、若手・中堅教員の研修・育成を進める。
 - イ 退職教員が増える中で、中堅や若手が「ものづくり」の技術を継承する。
- (4) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。
 - ア 部活動の環境整備を図るとともに、安全対策の強化を図る。
 - イ 学校課題について将来検討委員会等で検討し、組織的に迅速な実行を進める。
 - ウ 職員の一人ひとりが学校経営に参画し、経営的視点を持つことのできる組織づくりを進めるとともに、教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務の ICT 化を進める。
- (5) 地域貢献し、地域に愛される学校づくり
 - ア 特別活動 (行事、生徒会、部活動) を中心とした、地域への貢献を進める。
 - イ 企業や地域との連携を深め、学校の活性化を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	(1) 学力の定着 ア 生徒の実態を把握し、学力伸長に向けた授業を展開。 イ 授業評価を有効に活用。生徒が主体的に授業参加できるよう工夫改善を進める。 (2) ものづくり教育 ア 専門教育に付加価値高める イ 外部との連携	(1) ア・進路実現に向けた生徒の基礎学力アップを図る。 ・全学年外部模試による生徒学力定点観測・分析を行い課題の克服を図る。 ・自習室等生徒の学習環境の整備を進める。 ・補習講習等で学力保障を図る イ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員相互の授業見学、授業力向上研修を進める。他校の公開研究事例に参加。 (2) ア 職業資格取得を組織的に進め、専門教育としての付加価値を高める。 イ 大学や企業連携により、ものづくり教育への興味や関心を高める。	(1) ア・生徒による授業アンケートにおける授業満足度 80%目標 (H28: 79%) ・生徒の経年値学力の向上 ・家庭学習者の増加 30% (H28: 18、22%) イ・相互授業見学 1人2回以上 ・公開研究授業の実施。(教科) (2) ア・学校教育自己診断実習授業満足度 80% (H28: 75%, 74%) ・資格取得者: 2割増 (H28: JM の G:3、S:7、旋盤 3級 17名) ・インターンシップ参加数: 2割増 (H28: 66名)	
2 子ども達の未来に向けた支援と豊かな心のはぐくみ	(1) 人権教育と生徒指導 ア 発達段階に応じた人権教育の推進 イ 問題行動の防止や退学者等の減少に努める。 (2) 生徒の自己実現への支援 ア 教育相談体制の充実 イ 進路実現	(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」共生社会を学ぶ。 イ・学校のルール・マナを共有し遵守を進める。 ・担任団と生活指導部の連携強化(情報共有) ・日常的遅刻指導で遅刻減を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により中退者減、不登校減を図る。 ・学習環境の改善を図るため、全教員による学校巡回を定期的に行う。 ・情報倫理に関する指導の充実を図る。 (2) ア 支援教育コーディネータ中心に関係教員の連携強化し、配慮を要する生徒の支援、進路指導を活性化する。 イ・就職率 100%をめざし、1次内定率の向上を図る。 ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。	(1) ア 学校教育自己診断「命や人権の大切さ学ぶ機会多い」肯定率 55% (H28: 54%、45%) イ ・担任・生指の連絡会等開く ・遅刻年間 3000 未満 (H28: 3540) ・中途退学率の減少 (H28: 0.4%) ・問題行動指導の減少 (H28: 14 件) (2) ア・学校教育自己診断(生徒向け)の「先生が相談に応じてくれる」の肯定率 55%以上に (H28: 50%、55%) イ・就職内定率 100% (H28: 100%) ・卒業後 3 年の就職者の離職率調査 (20%以下を確保) (H28: 21.7%) ・大学進学希望実現度 90% (H28: 82%)	
3 魅力ある工科高校の創造と学校運営体制の確立	(1) 80 周年に向けた取り組み ア 本番の準備 イ 環境整備 (2) 中学校への戦略的広報活動 (3) 工業教育の研究と教員育成 (4) 生き生きとした学校生活 学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の検討と組織の検討 (5) 地域貢献	(1) ア 80 周年記念事業に向け校内組織整備 イ 環境整備を計画的に進行させる (2) ア 本校教員一斉中学校訪問、体験入学、学校見学会、進路相談会、出前授業等を効果的に行い志願者増めず。 イ 中学校教員対象の説明会やものづくり教室などを通じ工科の魅力を伝える。 (3) ・ものづくり技術研修とミドルリーダー育成 (4) ア 部活動をはじめ特別活動が活発に展開できる体制の構築。活気ある部活動の推進。 イ・将来検討委員会を定期開催。学校課題を分析検討。 ・学年と教科担当等の情報共有のため、教科担当者会議を開催。 ・担任と支援者の連携強化 (5) ア 部活動及び生徒会による地域連携に取り組む。	(1) ア 「多目的ドーム」建設完成 ・記念式典・行事の成功 (2) イ・中学校訪問のべ 200 校 (H28: 校) や体験入学、見学会、相談会、出前授業 (6 校) 実施。 ・平成 30 年度入学生選抜志願者倍率: 1.15 倍 ・中学校教員等対象行事数 (3) 実施回数 3 回 (4) ア・自己診断「将来の進路に向けた行事が充実」H29: 70% (H28: 68%、67%) ・部活動加入率 70% (H28: 69.1%) イ・年 2 回実施 ・組織運営の円滑化 ・年 1 回以上実施 (5) ・小中学校との連携を 5 回以上取り組む。H28: 5 回	